

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間令和4年9月26日
帯広開発建設部

インフラDX・i-Constructionの取組紹介について

～十勝管内の建設会社の皆様を対象とした現場見学会を開催します～

北海道横断自動車道(陸別IC(仮称)～陸別小利別)の工事現場において、十勝管内の建設会社の皆様を対象に、実際の工事で使用されている定置式水平ジブクレーンとICT建設機械の施工についての現場見学会を下記のとおり、開催しますので、お知らせします。

北海道開発局では、地域を支える建設業の健全な発展を後押しするため、建設業等の働き方改革の実現と、建設現場の生産性向上に向けた取組を行っており、今年度も『北海道開発局建設業等の働き方改革実施方針』及び『北海道開発局インフラDX・i-Constructionアクションプラン』(※)を策定し、その取組の一つである将来の担い手確保に向けて、広報や現場見学会・体験会の開催により建設現場の魅力発信を推進しております。

※【リンク先(働き方改革)】 <https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/jg/gijyutu/splaat0000010i9l.html>

【リンク先(i-Construction)】 <https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/jg/gijyutu/splaat000001x3oy.html>

記

- 開催日時 令和4年10月5日(水) 13:20 ～ 14:40
- 見学場所 ①北海道横断自動車道 陸別町 小利別南改良工事(別紙①参照)
(足寄郡陸別町字ポイントシュベツ原野基線)
②北海道横断自動車道 陸別町 川向改良工事(別紙②参照)
(足寄郡陸別町字陸別原野西一線)
- 対象者 帯広建設業協会会員 約20名
- 見学内容 ①ICT建設機械による施工状況の見学
②定置式水平ジブクレーンによる施工状況の見学
- その他
 - ・取材を希望される方は、駐車場確保のため、10月3日(月)12:00までに、以下の問合せ先にご連絡をお願いいたします。
 - ・当日は、時間までに見学場所へお越しください。
 - ・新型コロナウイルス感染防止のためマスク着用をお願いいたします。
 - ・雨天等により中止する場合は、こちらより連絡いたします。

【問合せ先】

■国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部 技術管理課

技術管理課長 うめき こうじ 梅木 幸治 電話 0155-24-2904

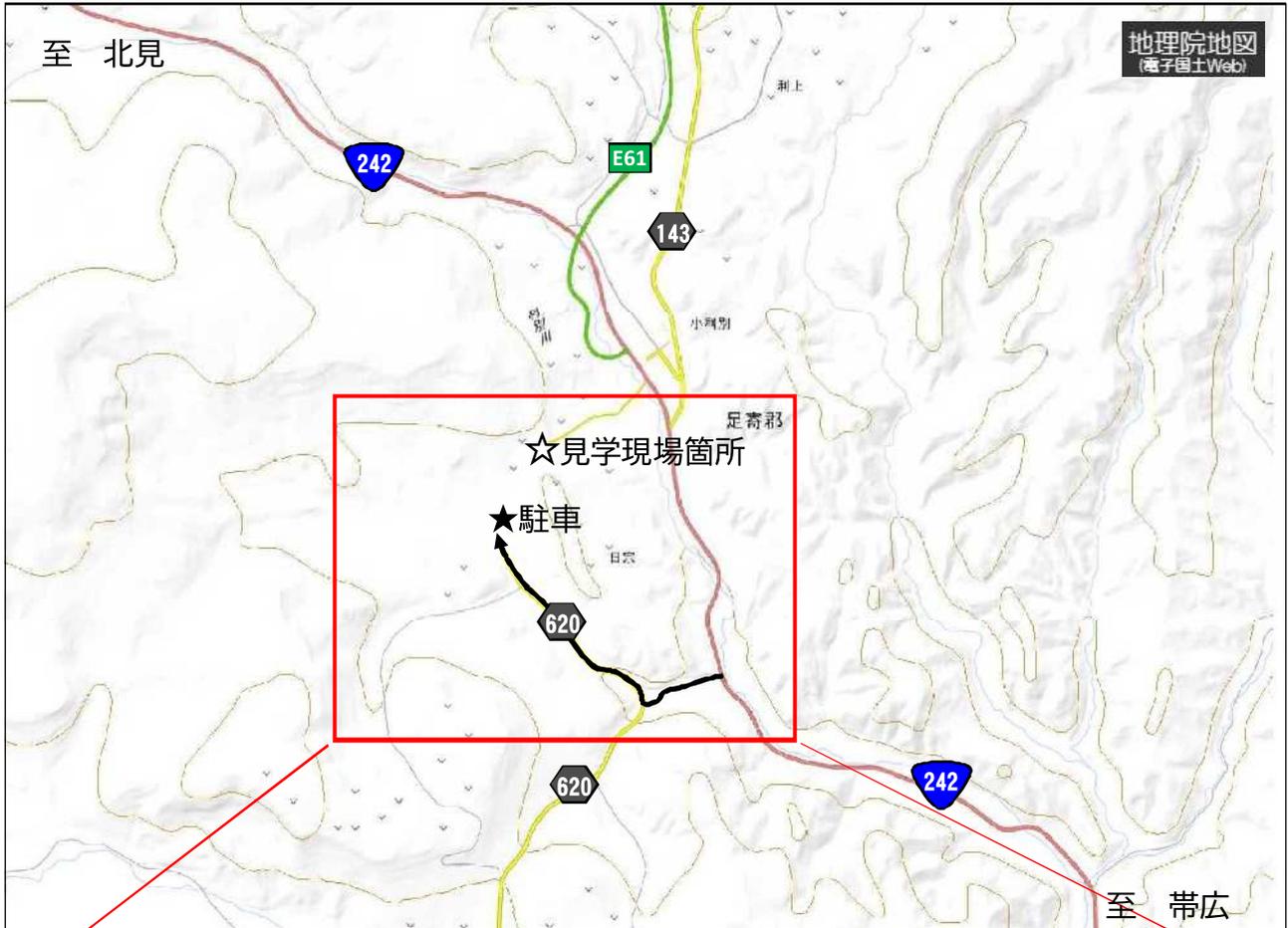
上席技術管理専門官 かさい かずひろ 葛西 一弘 電話 0155-24-2904

帯広開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ob/index.html>

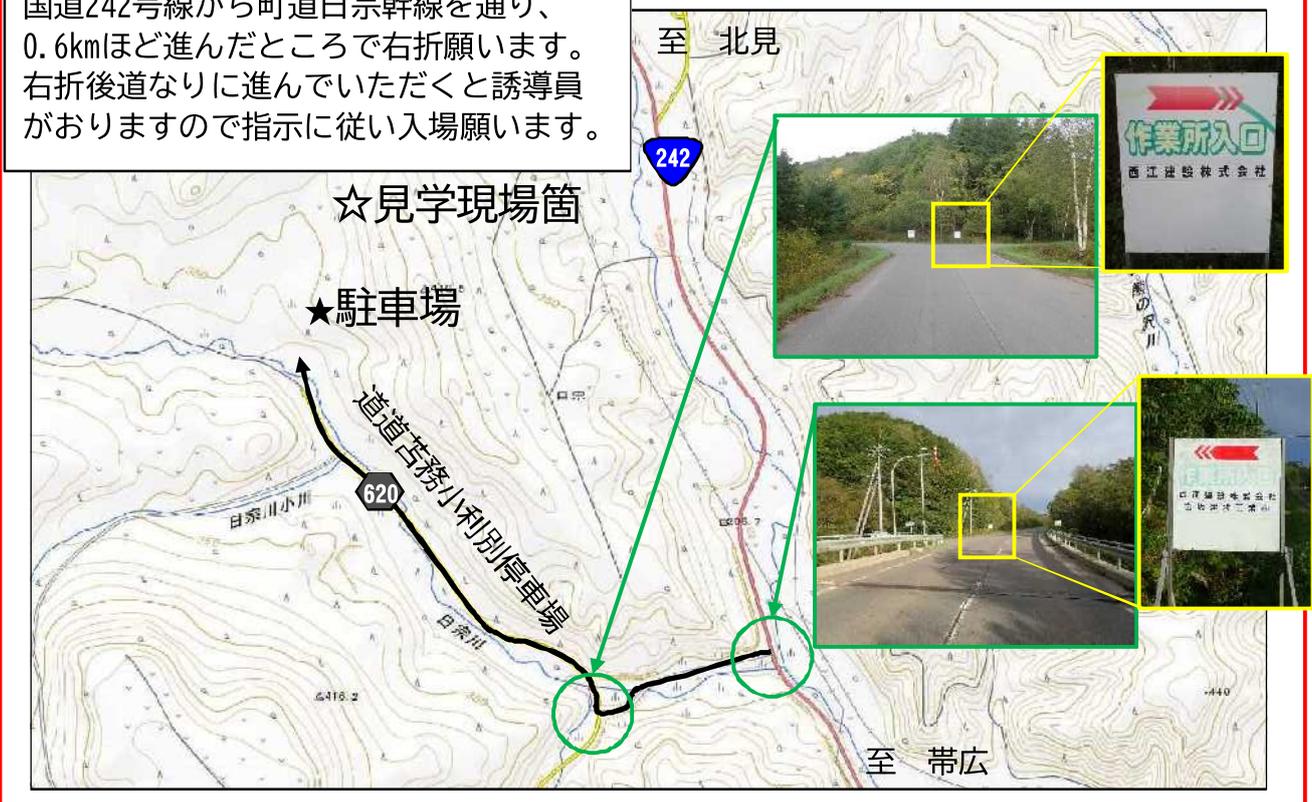
公式ツイッターTwitter アカウント @mlit_hkd_ob



【別紙① 見学会場案内図】 小利別南改良工事



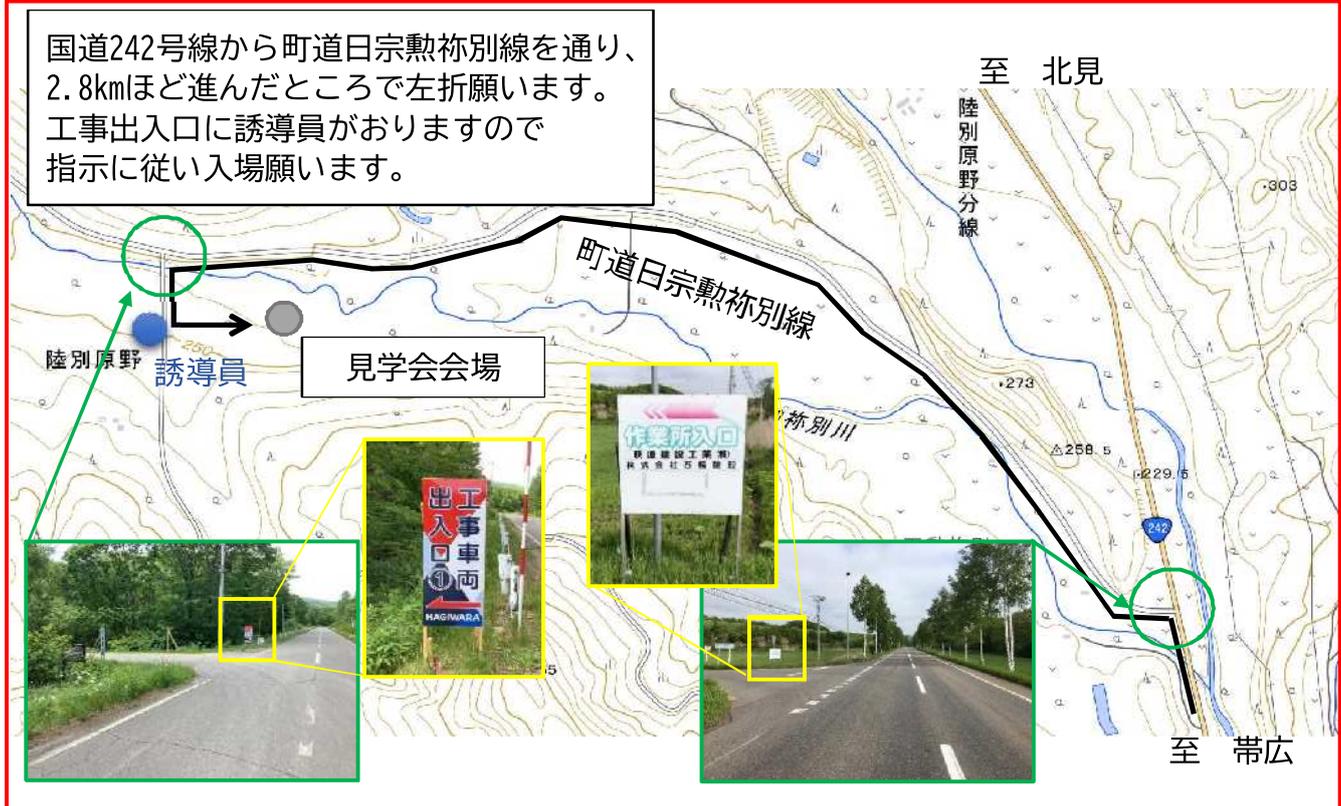
国道242号線から町道日宗幹線を通り、0.6kmほど進んだところで右折願います。右折後道なりに進んでいただくと誘導員がおりますので指示に従い入場願います。



【別紙② 見学会場案内図】川向改良工事



国道242号線から町道日宗勲祢別線を通り、2.8kmほど進んだところで左折願います。工事出入口に誘導員がおりますので指示に従い入場願います。





i-Construction

北海道開発局インフラDX・i-Constructionアクションプラン 令和4年度の取組

令和4年度 北海道開発局インフラDX・i-Constructionアクションプラン

1. i-Constructionの推進

- ①ICT活用工事の拡大（施工者希望I型の拡大、簡易型ICT活用工事の推進、新規工種活用拡大）、ICT未経験企業（サポート制度の試行）におけるICT活用の推進に向けた支援の実施
- ②プレキャストの導入に向けた工法比較手法の検討を促進する
- ③施工時期平準化の推進
- ④自治体と連携した普及の取組を行い更なる推進を図るため取組を継続し、自治体工事等においてもICT活用の全道展開を図る。（説明会等の開催、情報共有）
- ⑤HPや動画による情報提供や、広報や体験の機会を通じて現場の魅力を発信するなどの機会を拡大。
- ⑥「北海道開発局i-Con奨励賞」により優れた取組事例集や報告会などによりを広く周知し、導入拡大に向けた取組を推進
- ⑦生産性向上に向けた新技術・新工法への積極的なチャレンジ（3次元出来形管理や定置式クレーン等の試行、生産性チャレンジ工事による取組）

2. BIM/CIMの推進

- ①令和5年度までの小規模を除く全ての公共工事におけるBIM/CIM原則適用に向けて、大規模構造物の全ての詳細設計・工事で原則適用（小規模を除く全ての詳細設計で原則適用）し、BIM/CIM活用工事・業務を拡大
- ②BIM/CIM活用工事・業務のモデル事務所の取組を他開発建設部にも展開し、より一層のスキルアップを図る（先導事務所）
BIM/CIM活用をはじめ地域のDX・i-Conを先導する「先導事務所」による地域の自治体・企業へのサポートを実施
- ③維持管理を見据えたBIM/CIM活用及び3次元データを活用した維持管理の推進

3. インフラDXの推進

- ①人材育成推進のための環境を整備
- ②3Dデータを活用した研修・講習会の拡充（職員、地方公共団体、業界団体）
- ③ICT技術を活用した建設現場の遠隔臨場等による非接触・リモートの取組を推進
- ④デジタルデータを活用した北海道特有の課題に対応した技術開発・活用促進
除雪作業の省力化技術（i-Snow）、堤防除草の効率化技術（SMART-Grass）、河川巡視・点検の効率化技術（AI/EyeRiver）などについて寒地土研・有識者・民間企業との共同研究

4. フォローアップ活動

- ① 各種項目の普及状況等を確認するための実績等調査の実施

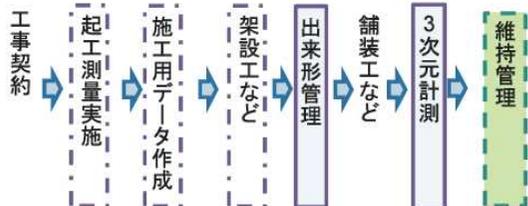
ICT構造物工(橋梁上部工)[試行]

- 構造物の出来形管理等へICT施工を拡大するとともに、取得する3次元データを活用し維持管理分野の効率化を図る
- 構造物工の関連工種として、上部工の出来形管理に3次元計測技術を活用し、出来形計測時間の短縮を図る
- 竣工時の3次元計測データの維持管理への活用を検討

定置式クレーン[試行]

- 定置式クレーンを活用した現場内運搬の省力化を推進
- 令和4年度も試行を継続

施工フロー



必要に応じ整備予定 (dashed box) 対象範囲 (solid box)

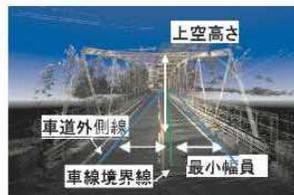
フローで囲みがないものは従来手法を想定

イメージ

● 3次元計測技術を活用した出来形管理



● 竣工時の計測データの活用

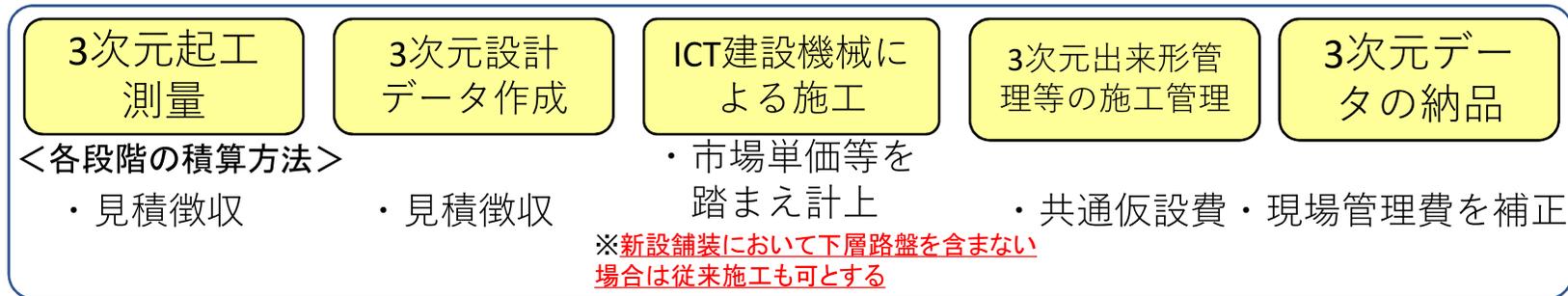


1 ICT活用工事の取組拡大（簡易型ICT活用工事の実施）

- 3Dデータ活用の普及拡大を進めるため、簡易型ICT活用工事を新たに導入。
- 対象工事において各段階における3次元データ活用に関する経費を変更計上の対象とする。

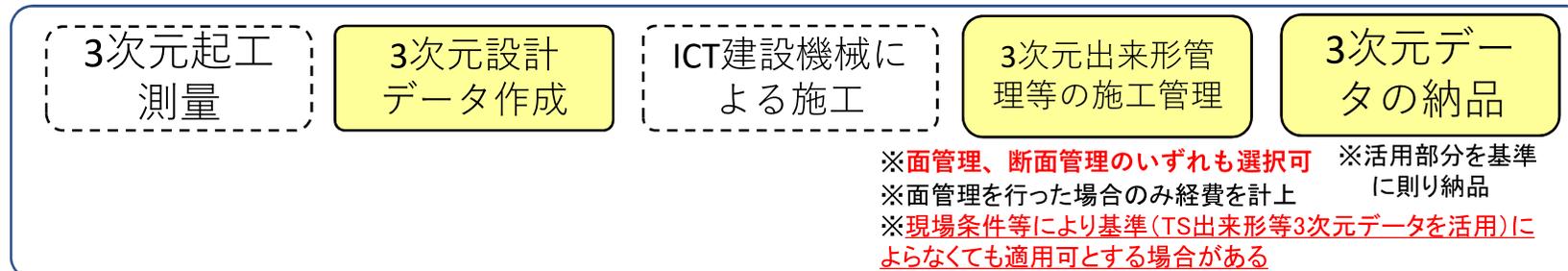
【通常のICT施工】

- 起工測量から電子納品までの全ての段階でICT活用を必須とする。
- 工事成績で加点・経費を変更計上



【ICTの部分的活用による施工】

- 起工測量から電子納品の各段階で部分的なICT活用を認める簡易型ICT活用工事を新たに導入。
- ただし、3次元設計データ作成、3次元出来形管理等の施工管理及び3次元データの納品での活用は必須とする。
- 工事成績で加点・各段階で経費を変更計上



ICT活用必須実施項目

選択項目